

1. 評価概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703576
法人名	有限会社 サンコー
事業所名	グリーンリーフ 星ヶ丘
所在地	北九州市八幡西区星ヶ丘6丁目1番37号 (電話) 093-618-7726

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん
所在地	直方市知古1丁目6番地48号
訪問調査日	平成 19 年 12 月 8 日
評価確定日	平成20 年 1 月 10 日

【情報提供項目より】(平成19 年 11 月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	29 人 常勤 8 人, 非常勤 21 人, 常勤換算 10.4

(2)建物概要

建物構造	鉄骨スレート葺平家屋 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含)	(無し)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月10日現在)

登録人数	17	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	3	要介護2	5		
要介護3	7	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	西尾病院 はなだ歯科医院 小倉東クリニック 井上内科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グリーンリーフ星ヶ丘は新興住宅地のメディカルゾーン内に立地し、ホーム玄関から東方に福知山を望み、西方は池に面し、開放感あふれる平屋造りの2ユニットのグループホームである。全館バリアフリーで、全居室にトイレや洗面所が完備され、入居者のプライバシーの保護や排泄時の自立を促している。運営理念である「自立した生活を支援する」を具現化するために、職員は経営者による職員の資質向上のため研修会受講や資格取得の支援を受けながら日々のケア向上に努力し、入居者は穏やかに暮らしている。また、訪問診療・訪問看護・協力病院等の連携で健康を管理したり、夜間警備を外部に委託したり、北九州市消防局楠橋出張所・星ヶ丘自治会と協力して災害時協定を検討するなど安全管理への配慮が優れている。そして、近隣の小学校との交流で自由にホーム立ち寄り小学生から、「折り紙先生」と呼ばれている入居者もおり、ほほえましい交流が展開している。ホーム開所当初から公園清掃や自治会行事に参加しているが、今後はそのような地域との交流を活かし、認知症の介護と予防について理解を得るための拠点としての役割が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	全職員が外部評価の意義を理解し、作成した改善計画シートに沿って改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。運営理念の共有化、職員間のケアプランの共有、確実な申し送りによる情報伝達、成年後見制度の活用、ストレス解消策の実施に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が職員に説明し、話し合いの結果を管理者がとりまとめている。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は地域包括支援センター職員・自治会長・介護老人保健施設事務長・特定施設施設長・ご家族2名(他県在住の家族)、入居者、グループホーム職員等で2ヶ月ごとに開催し、参加者の意見やアドバイスをホーム運営に反映している。毎回議事録を作成し、スタッフ会議等で報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族の来訪時に入居者の日々の暮らしぶりを写真等を見ながら報告している。来訪出来ない家族には請求書送付の時に近況を報告している。四季折々にホーム便りを発行している。既往症の受診や検診支援は随時行っているが、定期健康診断は受けていない。金銭出納は管理されている。成年後見制度等は、入居時に重要事項として説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	星ヶ丘町内会に加入しているので、町内会行事であるもちつきやクリスマス会に参加したり、地域の祭りでは山車が玄関まで来ている。散歩時には近隣から「グリーンリーフさん」と声掛けがある。星ヶ丘小学校との交流は頻繁で、小学生200名による楽器演奏の時は、入居者がお返しに振りを付けて歌を唄っている。社会科見学も受け入れ、交流を入居者は楽しみにしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域の方々と地域に密着した関わりを持ち、今回の法令改正の意義について全員で確認している。理念を方針として重要事項にも記載し、玄関ホールや居間ホールに掲示している。職員は理念を自分の言葉として語れる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員採用時やスタッフミーティングで共有し、介護計画に反映させている。開設2年目となり、入居者・職員共に、家庭的な雰囲気の共同生活が営めるようになったと管理者や職員は話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	星ヶ丘町内会に加入しているので、町内会行事のもちつきやクリスマス会に参加したり、地域の祭りでは山車が玄関まで来ている。散歩時には近隣から「グリーンリーフさん」と声掛けがある。星ヶ丘小学校との交流は頻繁で、小学生200名による楽器演奏の時は、入居者がお返しに振りを付けて歌を唄っている。社会科学見学も受け入れ、入居者は交流を楽しみにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価の意義を理解し、作成した改善計画シートに沿って改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。この1年で最も変化したのは、地域との交流がふえたことで、入居者の生活にも活力を与えている。自己評価は管理者が職員に説明し、話し合いの結果を管理者がとりまとめている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、自治会長、介護老人保健施設事務長、特定施設施設長、ご家族2名(他県在住の家族)、入居者、グループホーム職員等で2ヶ月ごとに開催し、参加者の意見やアドバイス等をホーム運営に反映している。毎回議事録を作成し、スタッフ会議等で報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター・福岡県グループホーム協議会・八幡事業者連絡会議等を通じて市町村と連携している。市職員の視察見学を受け入れたり、地元消防団と地域防災会議等に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	外部での研修会に参加し、スタッフ会議などで伝達講習をしている。成年後見制度等は、入居時に重要事項として説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に入居者の日々の暮らしぶりを写真等を見ながら報告している。来訪出来ない家族には請求書送付時に近況を報告している。四季折々にホーム便りを発行している。既往症の受診や検診支援は随時行っているが、定期健康診断は受けていない。金銭出納は管理されている。	○	定期的な健康診断の実施が望まれる。金銭出納は係わった職員と責任者の確認印をお願いしたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口、責任者を明記し玄関ホールに掲示している。年2～3回親睦会として家族会を開催し、意見をホームの運営に反映している。運営推進会議でも家族意見を大切にしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係作りの重要性を理解しているので、月2回の会議に参加したり入居者と話したりしている。ユニット毎の職員配置をしていない。異動や離職を抑制するために、研修参加や資格取得の援助、又昇給などで配慮している。	○	ユニット毎の職員配置で、馴染みの関係作りを一層深める人員配置をお願いしたい。業務日誌と連絡ノートを一体化して、各々のユニットでの活用をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の募集・採用に当たっては年齢不問で、シルバーセンターからの派遣も受けている。雇用契約書や就業規則など整備され、勤務シフトは希望を叶えられるように配慮している。休憩の場は確保されており、適当に休憩している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	管理者や職員は外部の人権研修を受講し、入居者及び職員の人権について意見交換している。個人情報や人権に関する資料は整備され、身体拘束マニュアル、高齢者虐待マニュアルが作成されている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、参加を応募している研修には出来る限り参加させるようにしている。外部研修参加者は会議で全職員に伝達している。運営者も折に触れ職員へ声掛けしたり、毎月話し合いの機会に雇用条件や職場環境について意見交換をしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会やグループホーム協議会に加入し、外部研修で知り合った同業者と交流を図り、ケアの向上に取り組んでいる。事業者連絡会では、行政や消防署等と地域防災について話し合いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の場合は家庭訪問や退院時カンファレンスに参加して、入居者と家族の状況を把握している。馴染みながらサービスを利用するために、体験入所やホームでの行事に参加してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることや得意とすること等を把握し、その能力が日常生活の中で発揮できるよう役割を持ってもらい、一緒に家事をしている。野菜や草花の育て方、家事の工夫など、入居者から見習うことが多く、職員は入居者との生活を楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望等は日頃の関わりや声掛け等で把握している。アセスメントの内容を日課表の中に記載し日々の援助に活かしているが、生活暦や趣味等の記載がない入居者もいる。	○	生活暦や職歴・趣味などの情報を収集し、介護計画に活かして頂きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の思いや意見等は日ごろの関わりの中から把握し、また職員の意見や気づきはカンファレンスで話し合い、介護計画に反映しているが家族との話し合いの記録の整備がない。	○	個別的な具体的な介護計画を作成するために、入居者や家族、職員の話し合いの記録の整備をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の変化や状況に応じて介護計画を見直す際は、家族来訪時に説明し、希望等を計画に活かしている。見直した介護計画は入居者や家族に説明し、同意印をいただいている。	○	介護計画の見直し時の入居者や家族の意見は、本人達の言葉で記載することで、介護計画に活かしていただきたい。また、介護計画をモニタリングするために、計画に添った日々の暮らしの支援や気づきを入居者毎の介護記録に明記していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の身体状況や家族の生活状況に応じて、医療機関通院や送迎、好みの理・美容院等の利用は柔軟に応じている。時に実家が気になる入居者を実家に送迎することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居当初のかかりつけ医の訪問診療や複数の医療機関と連携で健康管理をしている。受診状況は、業務日誌で職員に周知し、家族へは来訪時や電話で報告している。	○	家族への報告は電話などで伝えているので、その旨経過記録が求められる。
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対するマニュアル・同意書などを整備し、入居時に契約を交わしている。重度の入居者がいないので、外部講師を招いてスキルアップを図る研修を計画中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録などは鍵の掛かる書棚に保管している。契約書に個人情報の保護に関する方針等を明記し、職員は入居者を一人の人格者として尊重し、自尊心、羞恥心への配慮を心がけている。声かけは「○○さん」と穏やかな声で対応している。職員はコミュニケーション研修に参加し、職員間でスキルアップに取り組んでいる。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お花の好きな入居者とは一緒に水替えや草花の手入れをしたり、夜間不穏な状態にある入居者には落ち着いて眠れるように添い寝をするなど個別に対応している。趣味の折り紙で「折り紙先生」と子どもたちから親しまれ交流が続いている入居者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には献立を発表し、食材やおしゃれな料理名で食感を高めている。嚥下体操やオシボリ・手指消毒で食中毒にも配慮している。日頃の会話の中で好みのメニューを把握し、他施設の管理栄養士にメニューづくりをお願いしているが、オヤツはリクエストに応じている。入居者同士で食事の介助をするなど和やかな食事風景で、職員も伴食しながら楽しく食べている。片付けは共同で行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から金曜日まで自由に入浴出来る。入浴拒否者には声掛ける職員を代える事で対応している。浴槽が深く、必ず職員が見守りをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草むしりをしたい車椅子利用者には特注の椅子の利用で楽しみが継続できる工夫をしたり、一人ひとりの役割作りに観察と工夫がある。入居者の誕生日会を盛大にしたり、四季おりおりの行事を計画し、入居者の気分転換や気晴らしを支援している。入居者の笑顔がある日ごろ生活の様子は写真で壁に掲示され、家族に喜ばれている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の行事計画に基づいた外出も多いが、日頃よりホームの周りやメディカルゾーン、中央公園への散歩で四季を堪能している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は信念を持って鍵を掛けないケアの実践をしている。離園時にはさりげない声掛けや一緒に外出するなどに対応しているが、近隣の方々の電話連絡もある。セブンイレブンやメディカルゾーンの方々からも協力を得ている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練や火災訓練を実施している。北九州市消防局楠橋出張所の呼びかけで、自治会等と災害時協定締結に向けて話し合いが行われ、取り組みの実施記録が整備されている。備蓄は乾物が3日間ほど確保されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日1700Kカロリーを摂取できるように、管理栄養士がメニューを作成している。把握した毎日の摂取量・飲水量などを記録し、各自の嗜好品や嚥下状態によってミキサー・キザミ食、特別食も準備している。1ヶ月1回の体重測定で健康管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
31	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの入り口や玄関、居室入り口にも季節が肌で感じられる花を飾り、居室の目印になっている。食堂兼居間は明るく清潔感にあふれ、ホーム傍の池で水鳥の遊ぶ姿が見渡せるなど、四季折々の風景が楽しめる。通風口の開閉調整をしたり、アロマを焚いて防臭に努めて、居心地の良い共用空間づくりをしている。	○	誕生会や行事、会議に利用されている広い多目的ホールを入居者の憩いの場所にしたいと改装を計画されているので、実現を期待します。
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にトイレと洗面所が設置され、使用していた生活用品を持ち込んでいる。各入居者の生活様式に応じてベッドばかりでなく畳に布団を敷いたり、ゆっくりくつろげる工夫をしている。居室のドアには手作りのクリスマス飾りがあり、姓名で表札が掛けてある。		